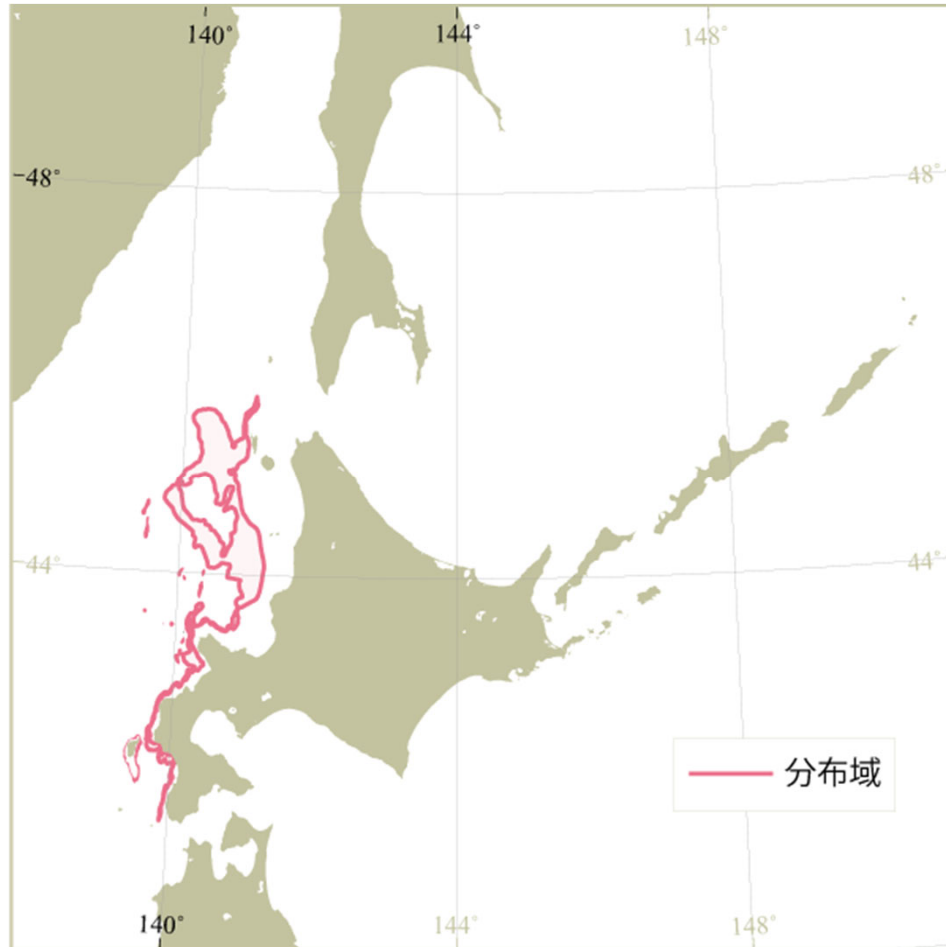




ズワイガニ北海道西部系群 令和7年度資源評価結果

生物学的特性等



- 北海道日本海の水深200～450mに分布。浮遊生活期から成体になるまでに5年以上を要すが、この間の移動・回遊は不明。
- 成長や齢期に関する知見はない。寿命は不明。
- 抱卵した雌や小型の個体が認められることから本海域でも産卵している可能性は高い。
- マダラによる被食が確認されている。

資源評価の方法（昨年度）

2024年漁期（7月～翌年6月）までの漁獲データ
ずわいがにかご漁業の努力量と漁獲量



ずわいがにかご漁業の1かごあたり漁獲量
（標準化CPUE：資源量指標値）



資源管理基本方針で定められた「**維持または回復させるべき目標**」となる**資源量指標値（1.0付近）**を基準に現状評価

資源評価の方法（今年度）

2024年漁期（7月～翌年6月）までの漁獲データ
ずわいがにかご漁業の努力量と漁獲量

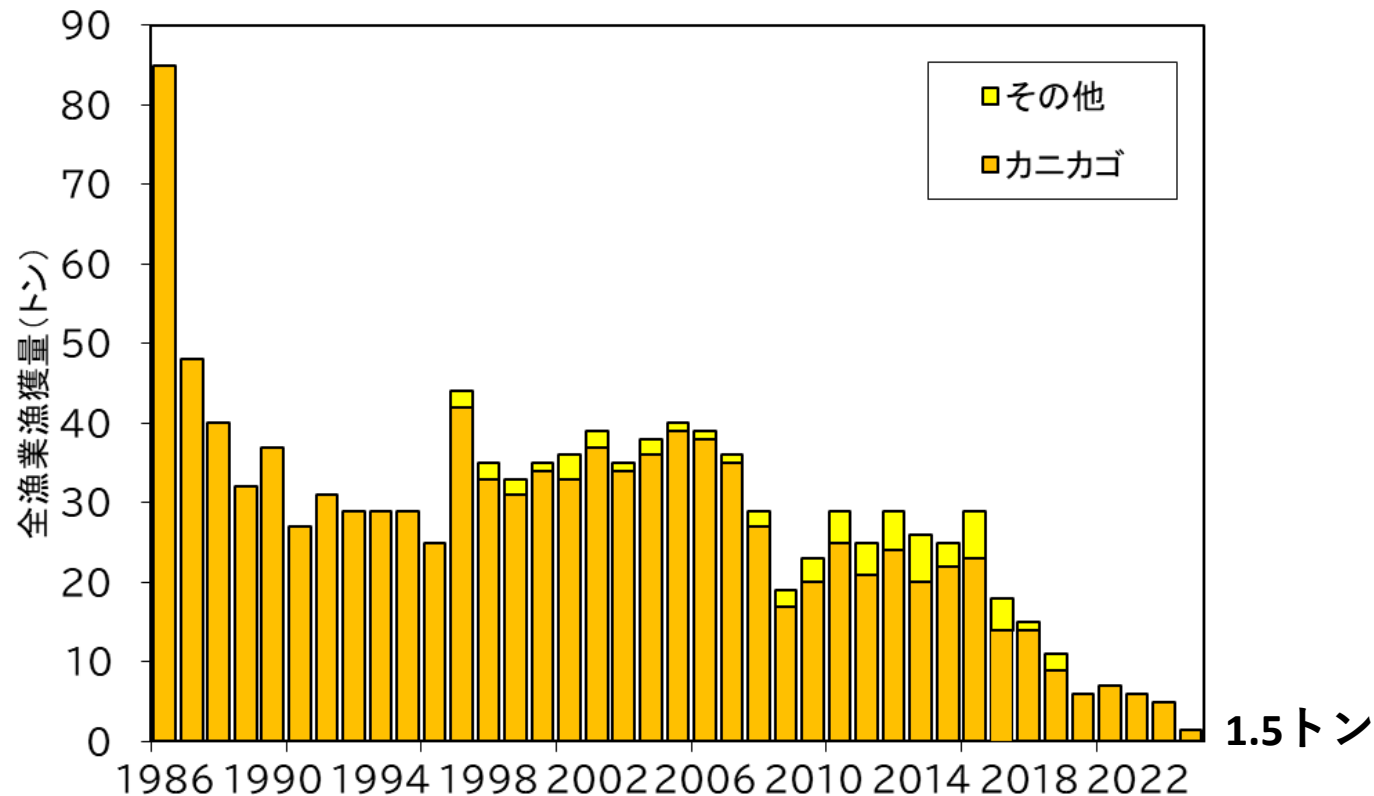


ずわいがにかご漁業の1かごあたり漁獲量
（標準化CPUE：資源量指標値）



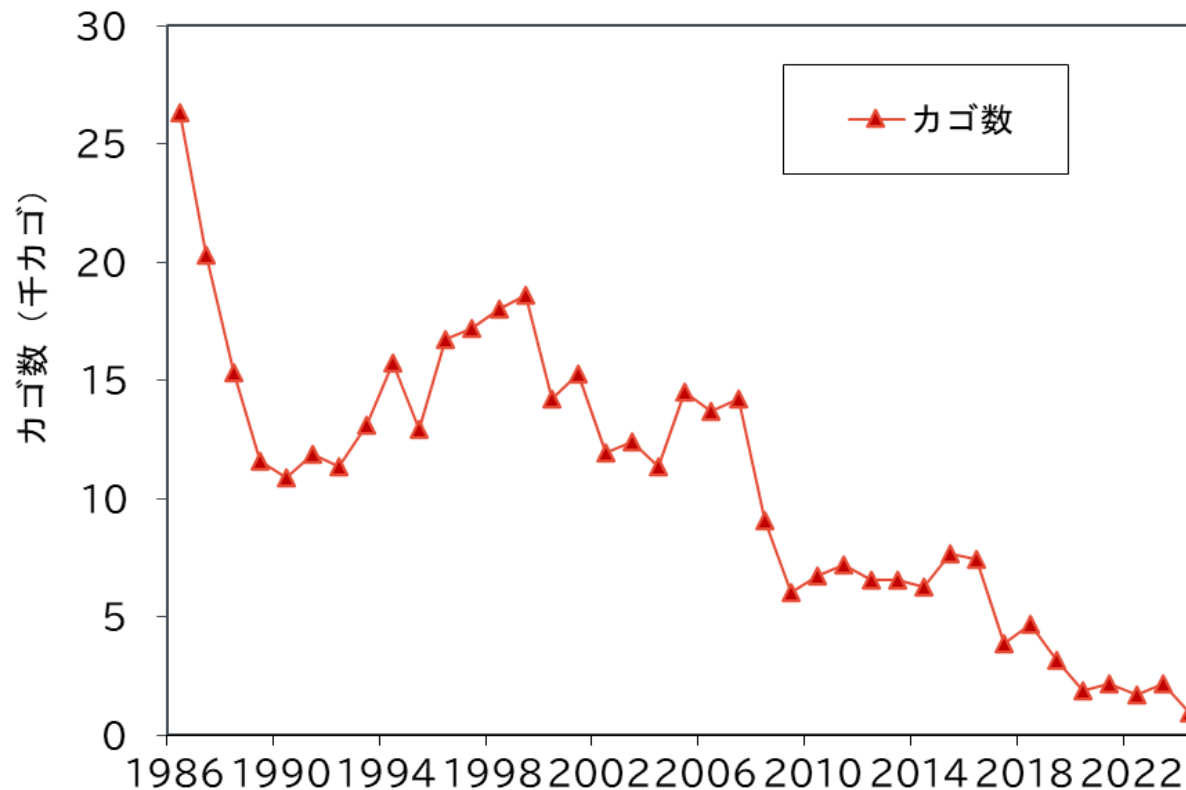
資源管理基本方針で定められる「**維持または回復させるべき目標**」の検討のため提案した、**資源量指標値の平均値（1.0）および過去最低値（0.4）**を基準に現状評価
短期的な資源動向の判断には調査船調査から推定される現存尾数を利用

漁獲量の推移



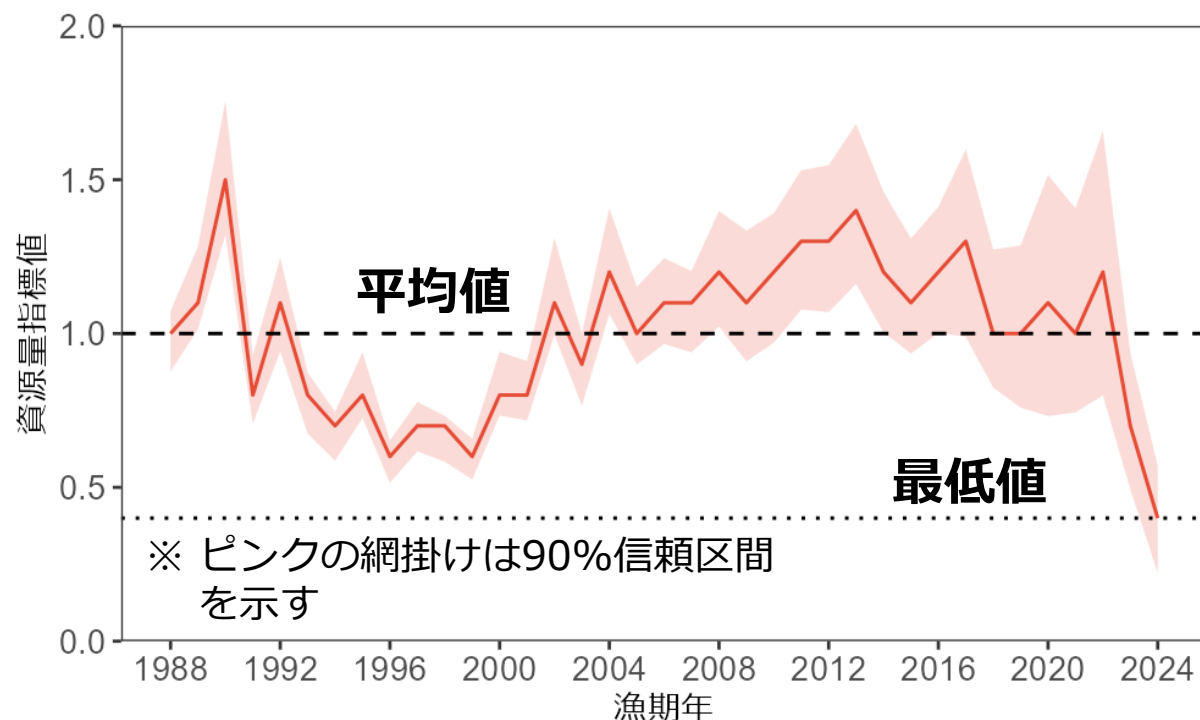
- 漁期年(7～翌年6月)の漁獲量は、1986年漁期に85トンだったが減少し、その後は概ね20～40トンで推移
- 2017年漁期から再び減少し、2024年漁期は過去最低の1.5トン
- 本資源の漁獲はベニズワイガニの漁獲に付随するものであり、2017年漁期以降の減少は、主に漁獲努力量の減少による

努力量の推移（カニかご漁業のカゴ数）



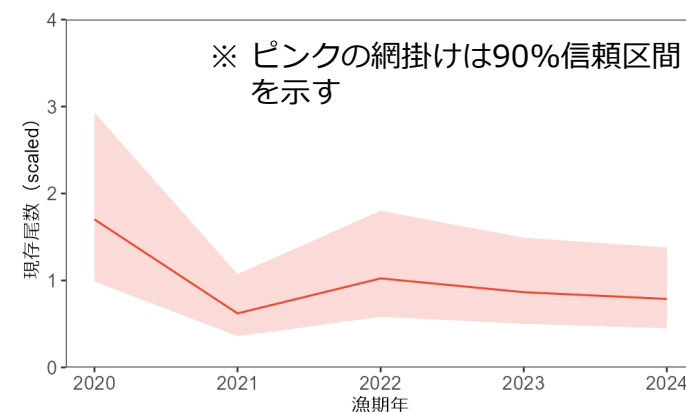
- 努力量（カゴ数）は、1985年漁期に2.6万カゴだったが、長期的には減少傾向で推移
- 2008年漁期に1万カゴを下回り、2017年漁期以降は減少が顕著
- 2024年漁期は960カゴ、操業隻数は2、合計6操業

管理基準値の更新について



← カニかご漁業の標準化CPUE
(平均1として基準化)

調査船調査による現存尾数



- 資源量指標値（カニかご漁業の標準化CPUE）の1988～2024年漁期の平均値（1.0）および最低値（0.4）を「維持または回復させるべき目標」の検討のため提案
- 2024年漁期の資源量指標値は 0.4 であり、過去最低値であった
- 調査船調査（カニかご調査）に基づき推定された現存尾数から、直近5漁期年の資源の動向は「横ばい」と評価した

評価と提案のまとめ

- 本資源の漁獲は、ベニズワイガニの漁獲に付随するものであり、我が国の漁船により得られる漁業CPUEは資源全体の動向を反映した指標値として取り扱うには十分な精度を有していない。また、調査船調査は開始されて間もなく情報の蓄積が十分ではないため「漁獲管理規則およびABC算定のための基本指針」に従い計算される管理基準値案に基づく漁獲管理規則の提案は困難である。
- 資源管理方針に関する検討のため、資源量指標値（かにかご漁業の標準化CPUE）の1988～2024年漁期の平均値（1.0）および最低値（0.4）を「維持または回復させるべき目標」として提案する。
- 2024年漁期の資源量指標値は0.4であり、過去最低値であった。
- 調査船調査（カニかご調査）に基づき推定された現存尾数から、直近5漁期年の資源の動向は「横ばい」と評価した。



ズワイガニ（北海道西部系群）①

ズワイガニは我が国周辺では日本海、オホーツク海、および茨城県以北の太平洋沿岸に分布し、本系群はこのうち北海道西部日本海に分布する群である。本系群の漁獲量等は漁期年（7月～翌年6月）の数値を示す。

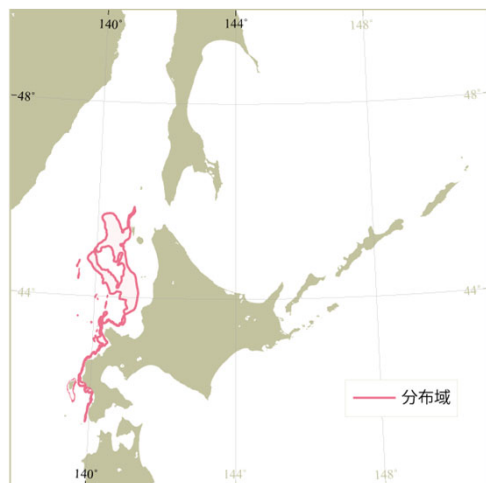


図1 分布域

本資源は大陸棚および沖合海山群の斜面域に生息し、積丹海山群、忍路海山、および武蔵堆に漁場が形成され、主にずわいがにかご漁業（かにかご漁業）で漁獲される。

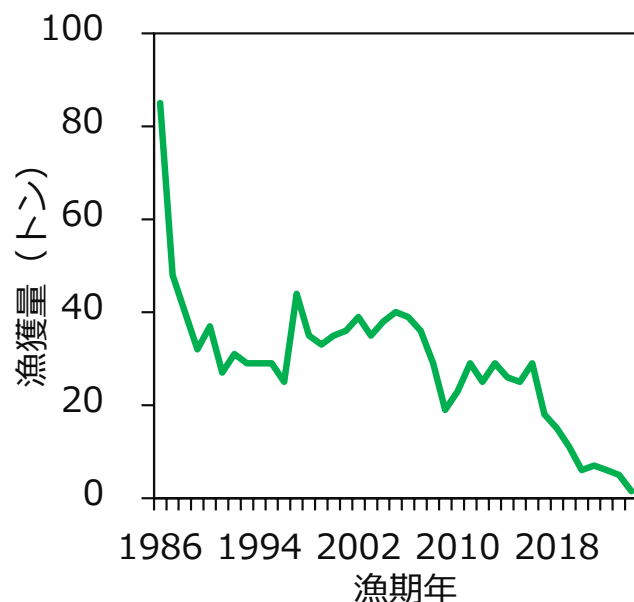


図2 漁獲量の推移

漁獲量は、1986年漁期は80トンを超えていたが、その後減少し、1988～2016年漁期は20～40トン程度で推移した。その後さらに減少し、2024年漁期は1.5トンであった。

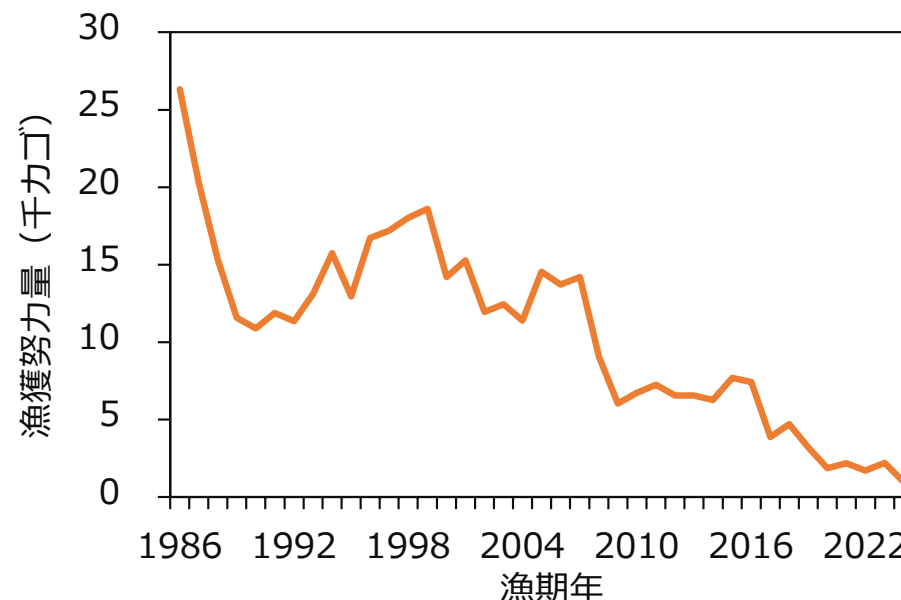


図3 漁獲努力量の推移

漁獲努力量（かにかご漁業のカゴ数）は長期的には減少傾向で推移し、2008年漁期には1万カゴを下回り、2024年漁期には960カゴであった。本系群の漁獲はべにずわいがに漁業に付随した形で行われるため、ベニズワイガニの漁獲状況等の影響を受ける。2024年漁期のかにかご漁業の許可隻数は3隻であるが本系群を対象に操業したのは2隻で操業回数は6回のみであった。

ズワイガニ（北海道西部系群）②

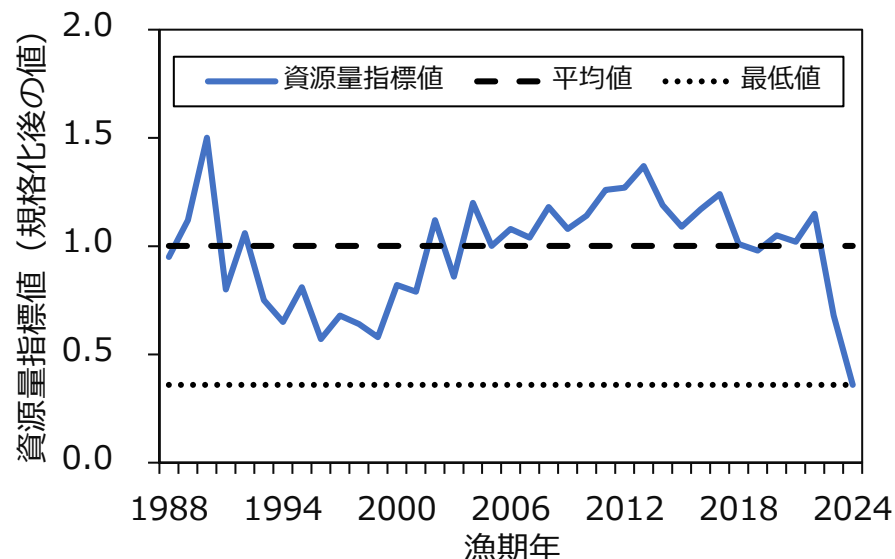


図4 資源量指標値とその平均値および過去最低値

かにかご漁業の標準化CPUEを資源量指標値とした。資源管理方針に関する検討のため、資源量指標値の1988～2024年漁期の平均値（1.0）および最低値（0.4）を評価の基準として提案する。2024年漁期は過去最低の0.4であった。

本資源の管理基準値等の検討について

本資源の漁獲は、ベニズワイガニの漁獲に付随するものであり、我が国の漁船により得られる漁業CPUEは資源全体の動向を反映した指標値として取り扱うには十分な精度を有していない。また、調査船調査は開始されて間もなく情報の蓄積が十分ではないため「漁獲管理規則およびABC算定のための基本指針」に従い計算される管理基準値案に基づく漁獲管理規則の提案は困難である。現行の漁獲シナリオでは、1997年漁期以降の資源水準を維持するよう漁獲を管理し、資源管理の目標の達成状況を踏まえ、必要に応じて見直すこととされている。

本系群では、資源管理方針に関する検討会の議論をふまえて最終化される項目については、管理基準値等に関する研究機関会議資料において提案された値を暫定的に示した。

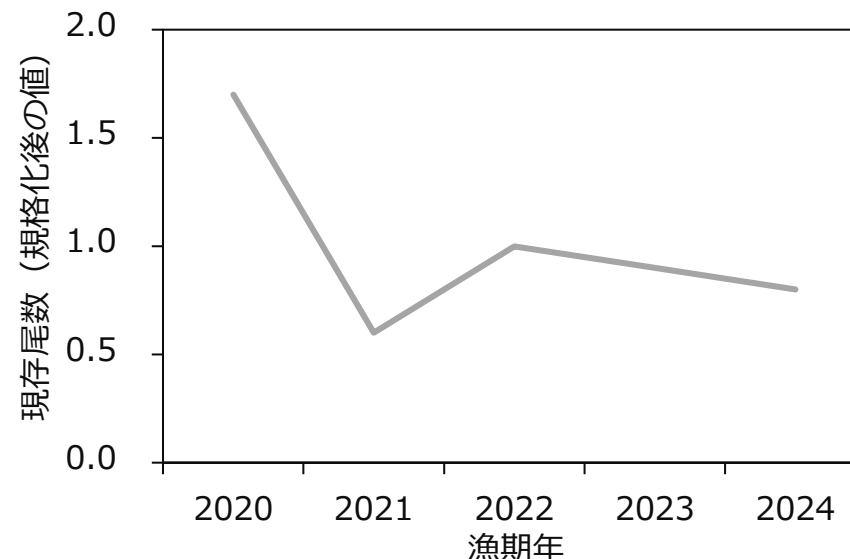


図5 調査船調査から推定された現存尾数

調査船によるかにかご調査から推定した漁獲対象資源（甲幅100mm以上の雄）の現存尾数を、短期的な資源動向を反映する情報として示す。現存尾数は2021年漁期に減少した後、2022年漁期に増加している。直近5年間（2020～2024年漁期）の動向は横ばいと判断される。